

ザンビア田舎の風景



初めてできた井戸を
囲む子供達

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 36 号 (H26.12.23)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



はじめに 平成 26 年も余すところ 1 週間あまりとなりましたが、この 12 月は寒気が次々と押し寄せていますが、皆様いかがでしょうか。

ニュース第 35 号で今年最後と考えておりましたが、井戸掘削の状況が届きましたので、第 36 号をお届けします。

多くの皆様からのご支援に心から感謝申し上げますと共に、来る平成 27 年が皆様にとってよりよい年でありますよう心からお祈りします。

会の経過報告 特にご報告することはありませんが、この一年のご支援に重ねてお礼申し上げます。

今回は、新たに掘削した井戸についての櫻井様からのご報告と、巡回診療に同行された三重大学大学院の長野由佳先生からのレポートが届きましたのでお届けします。

現地活動報告 (櫻井睦子様、長野由佳先生から)

◎「ルアノの人々の健康と生活を守る 5 本の井戸」

ザンビアは雨季に入りました。雨を待っていた村人たちは種まきに大忙しです。

首都ルサカで 2 度目の本格的な雨の翌日、12 月 12 日に山元先生、コミュニティーヘルスワーカーのシバンダ氏と櫻井で、今年 6 月に掘った 2 本と 11 月に掘った 3 本、計 5 本の井戸を見に行ってきました。

雨で道が通れなくなっていないか心配でしたが、まだルアノ地区にはそれほど降っていないらしく道中は問題ありませんでした。

5 本の井戸のうち 4 本は、村人の手で木の丈夫な柵が完成し家畜などの侵入を防いでいます。1 本は柵の制作が途中でしたが、柵の無い 2m 程の部分にはトゲのある枝が置かれて家畜は入らないようになっていました。

今回見つかった問題点はコンクリートの排水路の出口です。

11 月に掘った内の一本は、出口に 1m 四方で深さ 1.5m 程の穴を掘り中に大き

井戸の周りの丈夫な柵



衛生的な井戸の排水



な石を入れて、水が全てそこへ落ち地中に吸収されるようになっておりとても衛生的です。他の4本は、排水を誘導するように地面に溝が掘られたり、石が置かれたりしていますが、雨が降って周囲がぬかるみになると大きな水たまりとなり、マラリア蚊の温床となってしまいます。

ということで、深穴を掘って石を入れる方式を採用することにし、それぞれの井戸の地区のヘッドマンに写真を見せて説明し、同じように作ってくれるよ

正しい井戸の使い方の説明風景



うにお願いしました。

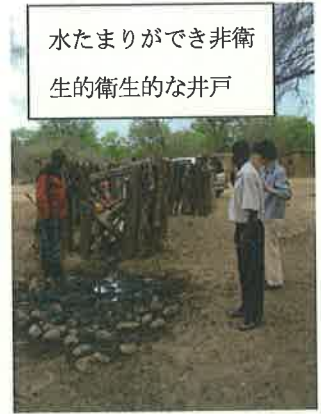
11月に新たに掘った3本の井戸では、シバンダ氏から村人に正しい

井戸の使い方を説明してもらい、井戸で洗濯をしないこと、井戸の周りにゴミなどを捨てないこと、家畜を井戸のそばに連れてこないこと等を村人に伝えました。雨が降り始めて種まきに忙しいため参加者は少なかつたものの、みな真剣に耳を傾けていました。

既に水質については WHO (国連世界保健機構) の飲料水基準を満たしていることを確認していましたが、念のためヒ素の検査もして問題ないことを確認しました。

頑丈な柵を井戸の完成後すぐに作ったことや、付近をきれいにしようと掃除している姿から、村人が井戸に感謝し大切に思う気持ちが伝わってきました。皆様のご支援で完成した計5本の井戸は、ルアノ地区の人々の健康と生活を向上させ、未来を照らす光となっています。(櫻井睦子様)

水たまりができ非衛生的な井戸



◎モバイルクリニックに同行して(長野由佳先生:三重大学大学院生命医科学専攻消化管・小児外科学)

この度は、ルアノ地区へのモバイルクリニックに同行させていただき、誠にありがとうございました。簡単ではありますが、今回の経験を振り返り、感想を送らせていただきたいと思います。

約3年半前、研修医のときに1ヶ月間 UTH で研修させていたのがザンビアとの出会いでした。その後、なんとなくザンビアという国が心の中にあり、昨年偶然にも山元先生の地道な活動を知る機会があり、ぜひ自分の目で直接活動を見学させていただきたいと思い、今回同行をお願いしました。

当日は、前回の研修で知り合った現地の看護師さんとともに同行させていただきました。朝6時にルサカのホテルを出発し、ルアノへ向かう道の途中で ORMZ のスタッフの方と合流しました。その後、チペンビヘルスセンターで2人のスタッフと合流し、ランドクルーザー2台でルアノに向かいました。ルアノへの道は、事前にお聞きしていた通りかなりの rough road で、スタッフの方が、雨期には車が道にはまってしまっていて動けなかったり、道路の一部が川の様になって動けなくなってしまうたり、ということもあると言われているのが印象的でした。

ルアノへの道路



現地に着くと、多くの患者さんが待っておられ、準医師や保健師、看護師といったスタッフの方々と、

コミュニティのヘルスワーカーさんがてきぱきと、ルサカから運んできた医療器具や医薬品、検査キットなどを準備し、受付が始まりました。以前は茅葺き屋根の下で診療を行っていたとのことですが、今はその手前に2つ建っているレンガ作りの建物を使っていました。1つは受付兼診療後に医薬品を渡す場所、もう1つを、5歳以上の患者さんの診察をしたりマラリアの検査をしたりする場所として使っていました。そして、少し離れた大きな木の下で、5歳以下の小児の健診(体重測定等)と予防接種をしていました。

診療風景



各患者さんにはカルテがつくられ、また、小児には一人一人に日本での母子手帳のようなカードがあり、思っていた以上に一人一人の健康がきちんと管理されていると感じました。また、小児の健診場所を診察場所から隔離していることについても、日本では当たり前と言えれば当たり前ですが、限られた場所しかないルアノでもそれがきちんと合理的に行われており、さすがは小児科医である山元先生のお考えなのだろうと思いました。

見学させていただいた日の患者数は120人程度と伺いましたが、それでも少ない方だと聞き、早朝にルサカを出発してから休憩もなく午後まで働かされているスタッフの方々には本当に頭の下がる思いでした。

見学の途中、コミュニティの生活の場にも連れて行っていただき、メイズを精製したり、生きた鶏をしめてボイルし毛をとって調理したりする場面を見せていただき、よい経験をさせていただきました。そのときに案内してくれた現地の方の態度や話し振りからも、山元先生をはじめとする ORMZ の方々のことをとても信頼し感謝している様子が伝わってきました。また、村の中には、29,31 号の ORMZ ニュースで読ませていただいた井戸があり、この日も村の小さな子がたくさん集まって、楽しみながら井戸の水をくんでいるのを見て、ORMZ の活動がいかに広くこの村の人々の生活に貢献しているかを肌で感じることができました。

井戸に集まっている子ども達



また、モバイルクリニックの活動が、山元先生がザンビアにみえないときにも、きちんと隔週でザンビアのスタッフだけで定期的に行われ続けていることが何よりもすごいと思いました(ここにいたるには様々な苦勞がきつとあったことでしょうか)。なお、現在はルアノの他にも 2 地区へ、それぞれ月 1 回行かれていると伺い、さらに多くの方々が、山元先生をはじめとする ORMZ の活動で救われるのだという事実に、心打たれました。

今回、モバイルクリニックに同行させていただき、前回の首都ルサカの大学病院での医療とはまた違った医療を見ることができ、とてもよい経験をさせていただきました。また、ザンビアに長く住まれている山本さんから、ザンビアに関しての現状や ORMZ のこれまでの活動や思いについてお話を伺うことができ、とても勉強になりました。ここには書ききれないくらい、本当にいろいろなことを感じ、医療について考えることができました。今回の経験が、多少なりとも、医師としての成長にプラスになったのではないかと思います。日本に帰り、いまは日常診療に戻っておりますが、とても貴重な経験をさせていただいたザンビアの方々に、いつか何らかの形で恩返しできればと思います。

スタッフや子ども達と



まとまりのない文章で申し訳ありませんが、今回の見学で感じたことを述べさせていただきました。今回、山元先生にお会いできなかったことが残念ですが、お忙しい中このような機会をつくっていただき、誠にありがとうございました。10月中旬には、またザンビアへ行かれると伺いました。ザンビアへの長旅も含め、くれぐれも体調を崩されることのないようご自愛ください。先生をはじめとした ORMZ のスタッフの方々の活動が今後も継続され、ザンビアの地域の方々の健康が維持されますことを願っております。

以上です

平成 27 年が皆様にとって良い年となりますように

また ORMZ へのご支援もどうぞよろしく申し上げます。